



ぶつちやけインタビュー 13  
いがらし みきおさん  
漫画家

## 障害者の「生きる覚悟」

映画『ジヌよさらば』(※1)の原作、漫画『かむろば村へ』(※2)は、「お金アレルギー」の青年が主人公だと知ったとき、ただただ、うらやましかった。花粉や水や卵などのアレルギーは困る。しかし、お金アレルギーなら救われる。お金に縛られずに生きられるじゃないか。お金があれば快適な暮らしが買える、成功者の証しにもなる、名誉も手に入るなどの妄想から自由になれる。いつそ、みんなでお金アレルギーになろう。

「とりあえず」で生きている

—スタッフから、「お金アレルギー」の青年を主人公にした漫画のことを聞いて、それは、万人理想のアレルギーや、と感動しまして、伺いました。

—お金に触ると、ジンマシンが出るとか、あるんじゃないかと思っただけでも、なかった。あつてもよさそうですけど…みんな、お金は好きなんですね。

—電車のつり革が持てないとか、極度に潔癖症の方がいらつしゃいます。でも、お金はいいんですね。つり革より、お金の方がもつというんな手で触られています。どうしてお金のアレルギーがないんでしょうか。

—ほとんどですね。お金ほどみんなに触られるものつてないように思いますが。

—ご自身は、お金アレルギーは？

—いやもう、好きですよ(笑)。くれるって言うんであれば、なんでももらおう方ですから。

—そうですか、すみません、うち、謝金の用意がなくて(笑)。

—スポーツ選手や有名企業の社長でも、年俸二〇億とかいうでしょ？もし自分なら、そんなにもらわない。五億でいいですつて、言いますね(笑)。

—そりゃ、五億円なら、わたしもいいです(笑)。でも、五億円あれば、何に使います？

—いや、買いたいものがない。若いころはそりゃ服が欲しいとか、電化製品がいいとか、あつたけれど、五〇歳過ぎたあたりから、モノを買いたい気持ちもだんだん摩耗してきました。歳のせいだけとは言えませんが、いまの若い人を見ても、欲しいものがあんまりないんじゃないでしょうかね。うちの娘も二四歳ですけど、何が欲しいと聞くと、とりあえず何かは言いますね。とりあえず靴とか、服とか。でもそれがずーっと欲しかったものなのかと言うと、違います。ホン